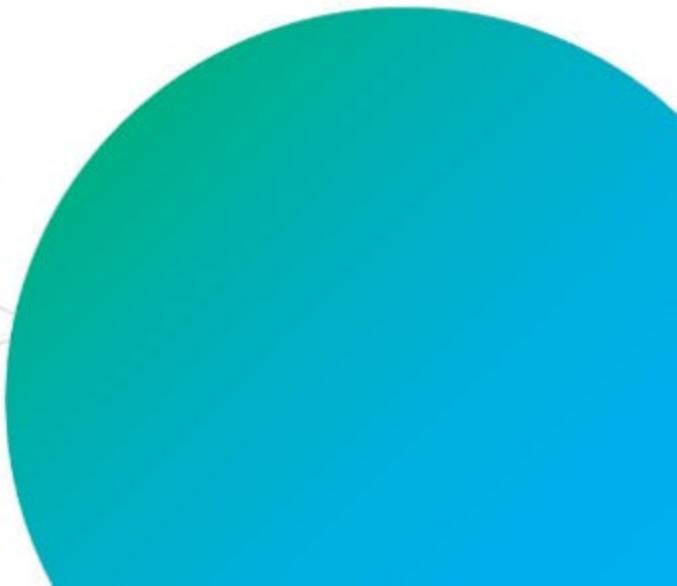




**GLOBAL  
STARTUP  
CAMPUS  
INITIATIVE**

グローバル・スタートアップ・キャンパス構想  
先行的活動について



# 日米比較（ディープテックスタートアップの立ち上げ・育成）

## 【米国のディープテックスタートアップの立ち上げ・育成モデル】



「世界のエコシステムにつながっている」

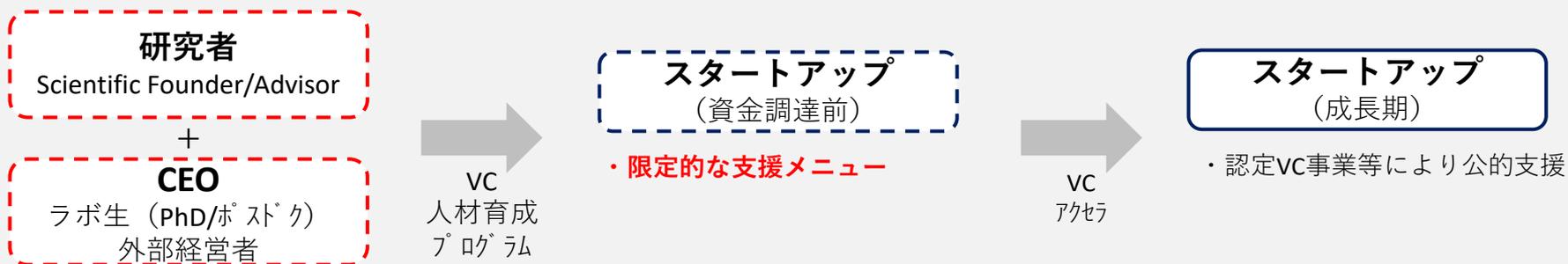
⇒R&Dから事業段階までグローバルレベルで戦略構築/社会を変革するテーマの設定

⇒グローバルレベルの事業化支援による飛躍的な成長

⇒テクノロジーのバックグラウンドを有するCEO (PhD-CEO) が次々に育成

⇒ネットワークやコミュニティの形成が最重要

## ● 【日本の現状・課題】



「世界のエコシステムにつながっていない」

⇒ニーズが必ずしも十分に把握できていない/ヒト、カネを惹きつけるテーマの設定が不十分

⇒仮にテーマ設定や創業ができたとしても世界に売り出せない（大学等でのグローバルレベルの支援が不足）

⇒ディープテック創業に必要なPhD-CEOが育っているとは言えない状況

⇒日本の内でもエコシステム形成の視点が脆弱（つなぐ視点が脆弱）

# GSCの目指す姿と3つの事業

## 解決すべき課題

## 目指す姿と3つの事業

世界のエコシステムに  
つながっていない

世界のエコシステムとつながるハブの構築  
(グローバル・スタートアップ・キャンパス)



1

ヒト、カネを惹きつけるテーマ  
の設定が不十分

①研究者等の集積へ向けた  
テーマ型国際研究

海外大学等と連携した、世界の研究者、起業家、  
投資家の呼び込み

2

グローバル・レベルの支援が不足

②事業化支援

研究者やスタートアップを対象に、世界水準のメンタ  
リング/コミュニティ形成/海外VCへ接続/ギャップファ  
ンド等の支援

3

PhD-CEOが不足

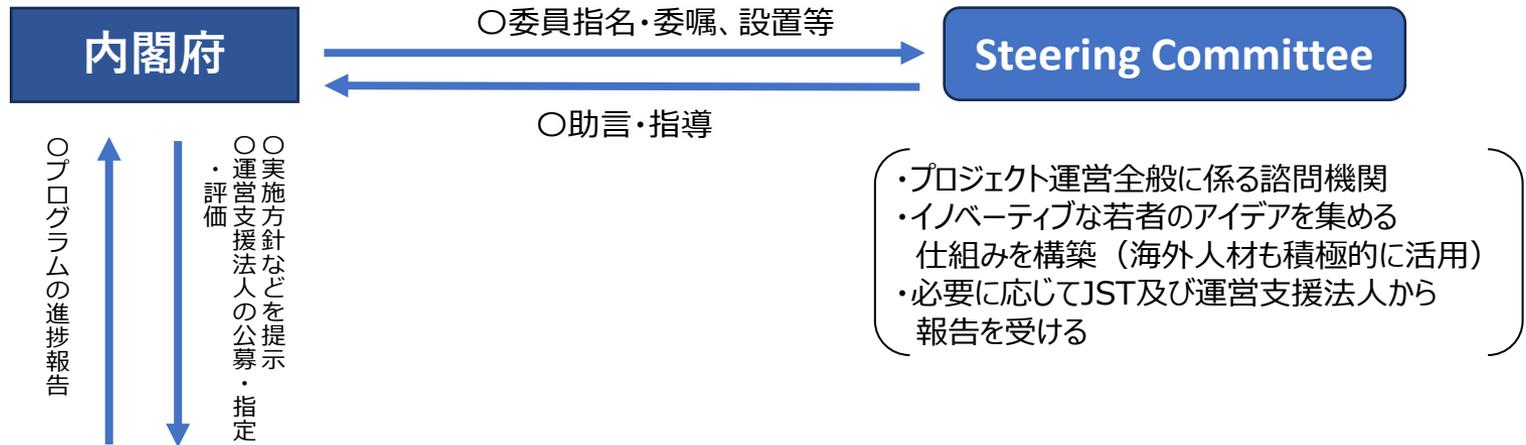
③人材育成 (フェローシップ)

起業意欲の高い若手研究者等を対象に、  
日本と海外で派遣・受入プログラム提供

4

日本の内でもエコシステム形成  
の視点が脆弱 (つなぐ視点が脆弱)

- 内閣府に外部有識者からなる**ステアリング・コミッティ**を設置し、**全体を運営**
- **国内外の外部機関を運営支援法人として活用**し、柔軟かつ機動的に取り組む



事業モデル①：  
研究者・投資家等の集積へ  
向けた国際研究プログラム

JST・運営支援法人

事業モデル②：  
事業化支援プログラム

JST・運営支援法人

事業モデル③：  
人材育成（フェローシップ）  
プログラム

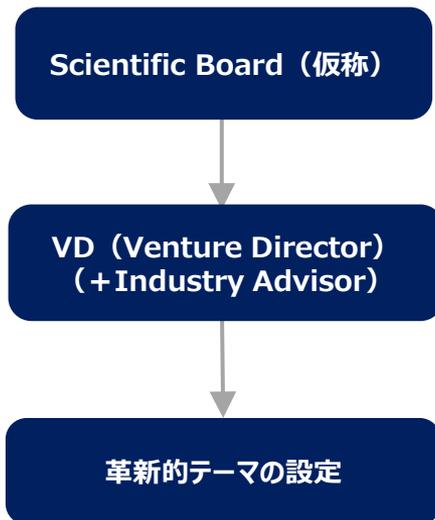
JST・運営支援法人

※各事業モデルにおいて複数の運営支援法人の活用もありうる

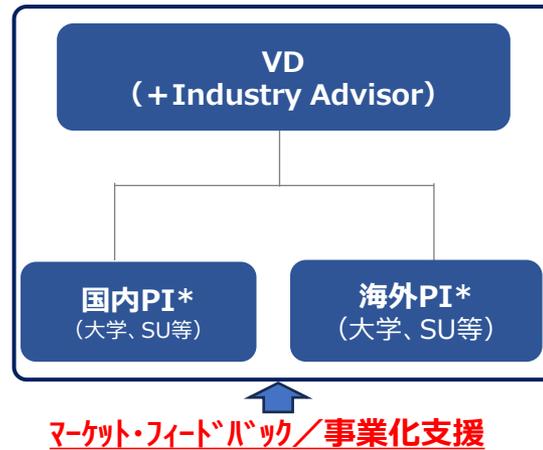
# 事業モデル①:研究者・投資家等の集積へ向けた国際研究プログラム

- グローバルな人材や資金を呼び込むべく、社会的インパクトの**高い革新的テーマ**の下、**海外大学等とも連携した国際研究**を実施
- 以下の特徴を有するプログラムを構築
  - ・世界の研究者や企業にとって魅力的な、**ディープテック分野の革新的テーマ設定**
  - ・事業化を見据えたマネジメントを行う**VD (Venture Director)**がスピーディーに意思決定
  - ・インダストリーアドバイザー（関心のあるVCや企業等）を設置、**マーケットフィードバック**を導入
  - ・**イノベティブな若者の画期的アイデア**を集める仕組みを導入

## Step 1: 革新的テーマ設定

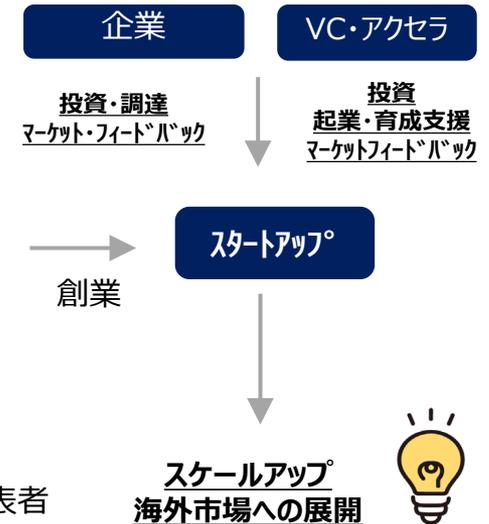


## Step 2: 国際研究組成

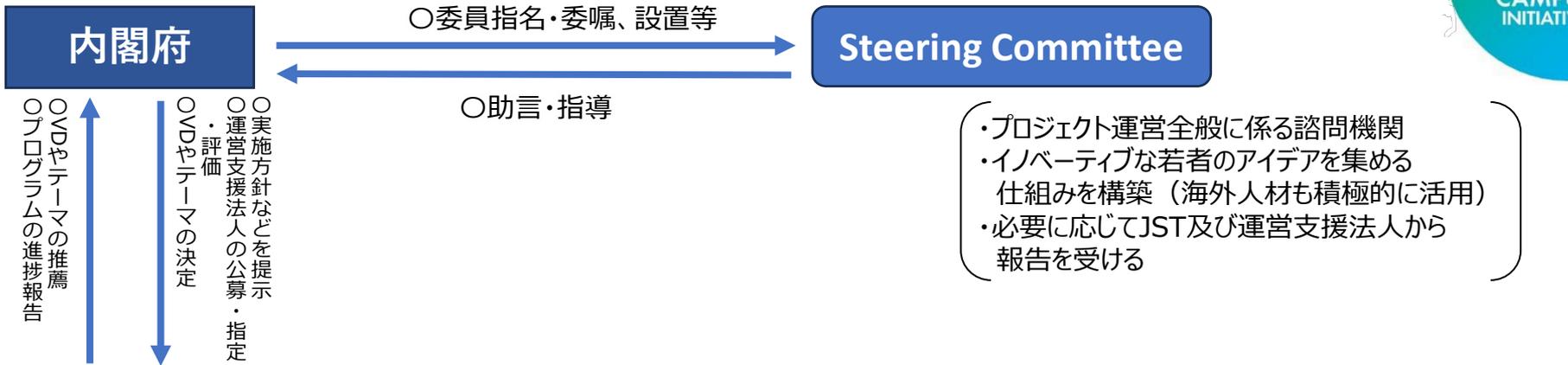


\* PI (Principal Investigator) : 研究代表者

## Step 3: 起業・スケールアップ



# 研究者・投資家等の集積へ向けた国際研究プログラムの実施イメージ ～一例～

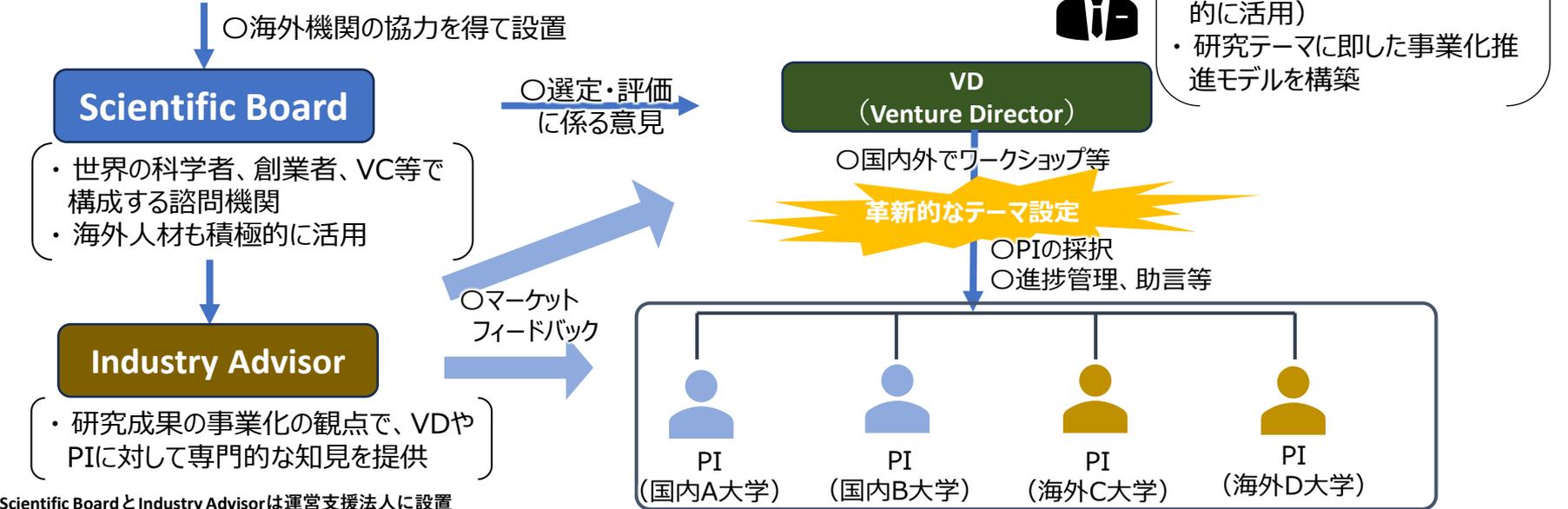


## JST・運営支援法人

※必要に応じて、海外協力機関と連携して、SB設置、VD選定（推薦等）研究テーマ設定、PI選定等を行う

運営支援法人は、VDの選定やテーマの設定等に係る支援をミッションとし、研究・研究者支援等に専門性を有し、海外大学・支援機関等とのネットワークを有する財団等を想定  
(事業規模に応じて複数事業者による実施体制も想定)

・世界の最先端のテクノロジー動向に関する知見、研究・事業化経験、マネジメント能力を有する者（海外人材も積極的に活用）  
・研究テーマに即した事業化推進モデルを構築

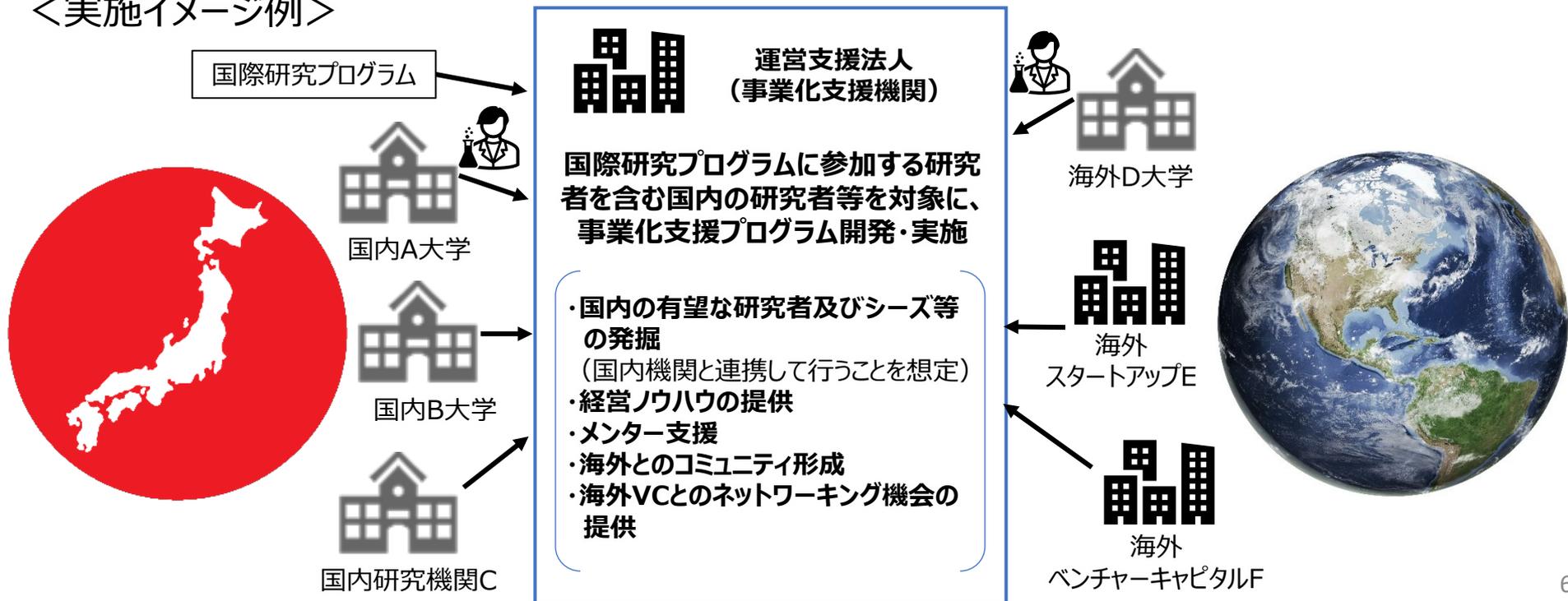


※Scientific BoardとIndustry Advisorは運営支援法人に設置

## 事業モデル②:事業化支援プログラム

- 国際研究プログラムの研究成果に加え、我が国の大学・研究機関・拠点都市発のグローバル展開を目指すディープテック分野のシードやスタートアップを対象
- **大学等の研究成果の事業化の支援に実績を有する国内外機関との連携により、事業化支援（※）を提供**  
(※) 例えば、事業者を目指す研究者に対する経営ノウハウの提供、メンター支援、コミュニティ形成支援、ギャップファンド提供、海外VC・スタートアップ間でのネットワーキング機会の提供、国内大学との連携体制の構築などを想定
- **実績を有する国内外の事業化支援機関を運営支援法人として活用したグローバル水準のプログラムの実行が特徴**

### <実施イメージ例>



## 事業モデル③：人材育成（フェローシップ）プログラム

- 起業家精神の高い若手研究者（ポスドク）等の育成を通じて、PhD-CEOなどエコシステム強化に求められる人材を育成
- 海外での長期間のOJTによる人材育成が特徴  
※海外大学の優秀な研究者の受け入れも強化
- 実績を有する国内外の外部機関を運営支援法人として活用したプログラムの実行が特徴

<プログラム概要> ※ ①はR6.12に募集開始、②と合わせて本年春頃に派遣開始

### ①若手研究者（ポスドク）海外派遣・受入

- ・スタートアップ等を生み出す海外大学(※)研究室に若手研究者を派遣
- ・海外の優秀な研究者を日本の先駆的なラボに受け入れ、ネットワーク形成を推進
- ・最長2年間

### ②ディープテックの事業化に高い関心のあるビジネス人材の海外派遣

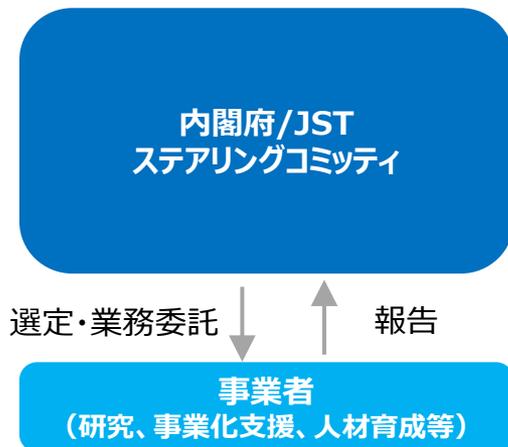
- ・ディープテックの事業化に高い関心を有するビジネス人材等を海外VC等(※)に派遣し、OJT型プログラムを実施
- ・6か月～最長2年

### ③ディープテックの事業化に高い関心のあるVD（Venture Director）/運営人材等の養成（海外派遣）

- ・海外の資金配分機関等に人材を派遣し、社会的インパクトの高い革新的テーマ設定、ディープテック分野における研究支援・マネジメント等に精通した、将来のVDやGSC運営人材の候補となり得る人材を養成

- 基本的な考え方：
  - ・運営法人設立前及び設立後（初期）は、外部委託も活用したプログラム実施
  - ・運営法人設立後（定常期）は外部委託によって得た知見を踏まえ法人にてプログラムを実施
  - ・運営法人は、海外大学等との連携を通じた運営を確保

## ① 運営法人設立前 （外部委託活用モデル）



## ② 運営法人設立後（初期） （外部委託活用+自家運用準備）



## ③ 運営法人設立後（定常期） （自家運用）



既存の大学や民間施設等を活用

新施設を活用

# 参 考 资 料

# GSC基本方針概要 (コンセプト)

2024年8月29日  
統合イノベーション戦略推進会議決定

GLOBAL  
STARTUP  
CAMPUS  
INITIATIVE

## ミッション

世界最高水準のイノベーション・エコシステムのハブを構築する。

## GSC構想の 推進体制

- ◆ 統合イノベーション戦略推進会議を司令塔とする。
- ◆ 同会議が示す方針に基づき、フラッグシップ拠点の運営を担う運営法人を創設。
- ◆ GSC関連活動全体を幅広く連携させるコンソーシアム（アンブレラ組織）を置く。

## 主要活動内容

### I ディープテック分野 の研究開発

- ◆ 社会的インパクトの大きいディープテック分野を重点。
- ◆ 研究の初期段階からマーケットフィードバックを重視。
- ◆ 充実した研究環境の提供。

### II インキュベーション・ アクセラレーション

- ◆ 事業化支援（BD）・知財支援（IP）
- ◆ 海外VCやスタートアップ支援機関を招致。
- ◆ 国内外の大学・研究機関、企業、スタートアップ等に有償でスペースを提供。

### III 人材育成

- ◆ 起業家精神のある研究者、VC、BD・IP人材を育成するためのフェロースhip事業を実施。
- ◆ 運営法人に幅広い人材を受け入れ、イノベーションを生み出すグローバルな経営を学ぶ場を提供。

### IV その他

- ◆ 国内外のネットワーク形成に向け、各種イベント等を開催。
- ◆ 海外研究者等への滞在・ビジネス環境支援。
- ◆ 先端技術に関する内外の研究開発動向の調査研究。

## 運営法人の組織形態・事業展開

### （組織形態）

- ◆ 国が役員人事・予算等の運営に一定の関与を行う民間主体とすることを念頭に、内閣官房・内閣府において、関係省庁の協力を得ながら、必要な法制上の措置も含め具体化。
- ◆ 研究開発からスタートアップ、国際事業展開まで一貫通貫で取組む観点から、運営法人に関する制度は内閣府が中心となって所管。

### （事業展開）

- ◆ 国内外の企業・非営利法人、投資家・篤志家による資金、政府の競争的研究費等も含めた多様な財源による自立的・持続的な運営（自走）。
- ◆ 文科省、経産省、防衛省等関係省庁の協力を得つつ、オールジャパンの体制で取り組む。関連する独法は、必要な連携・協力をを行う。
- ◆ 政府方針に基づき、GSC全体の研究・事業化リソースを活用・強化。

## 土地・建物

- ◆ 土地は、東京都目黒区・渋谷区に跨る国有地を活用。運営法人が当該国有地を現物出資等により使用することを基本。
- ◆ 建物は、世界のトップ人材を魅了するものを建設する。
- ◆ 設計・建設に当たっては、世界の研究・インキュベーション施設の運営経験と知見を組み込み、民間ノウハウや資金を最大限活用することを基本。

## 先行的な取組

- ◆ ① 先行研究事業の実施：施設の開所・運営法人の設立に先立ち、世界から優れた人材・投資を集める呼び水となる最先端の研究活動を実施。
- ◆ ② フェロースhip事業の実施：グローバル・ネットワークの構築に向け、フェロースhip事業についても先行的に実施。

# グローバル・スタートアップ・キャンパス構想 (イメージ)

## 国 (統合イノベーション戦略推進会議)

- ・ 担当大臣の下、方針を提示
- ・ GSC構想の下での広範な活動を柔軟に展開可能な枠組として構築

## コンソーシアム (アンブレラ組織)

- ・ 法人運営以外の活動も含め、GSC関連活動全体を幅広く連携

## GSC運営法人

### ●組織形態・運営

- ・ 国が役員人事・予算等の運営に一定の関与を行う民間主体を念頭
- ・ 研究開発からスタートアップ、国際事業展開まで一貫通貫で実施
- ・ 柔軟な事業運営を実現 (業務の専門性に応じて外部委託などを活用)

### ●事業展開

- ・ 多様な財源による自立的・持続的な運営 (自走)
- ・ 関係省庁・関連独法は必要な連携・協力 (オールジャパンの体制)
- ・ 政府方針に基づき、GSC全体の研究・事業化リソースを活用・強化

